2022 IEEE Region 10 SYWL Congress 参加レポート

早稲田大学　基幹理工学部　2 年
中島　瑛子

概要

私は 2022 年 8 月 11 日～8 月 14 日の 4 日間に韓国の済州で開催された、2022 IEEE Region 10 SYWL Congress に参加した。本会議では IEEE の Student, Young Professionals, Women-in-Engineering , Life Member の組織からメンバーが参加し、speaker 各々の研究分野の講演が行われ、参加者との交流を行った。途中参加や帰国する方々も含めて、参加者 85 人中日本からは 12 名が参加し、国別ではインドが 35 名と一番多く、次に韓国 16 名、日本 12 名と続き、その他にもオーストラリアやパキスタン、シンガポールなど、様々な国からの参加者が集まった。日本の SB からは私を含め 4 名が参加した。本会議で、世界からの SB からの参加者は比較的少なかった。以下、会議のスケジュール・概要と、会議を通して感じた印象を述べる。

各セッションについて

8 月 11 日は、17 時から Opening Ceremony が行われた。その後に Plenary Session で、Samsung 研究所の方が 6G に向けた通信の発展について講演された。19 時からは Welcoming Dinner で、日本支部から来た参加者や他国の参加者と交流した。

8 月 12 日は、午前中に Plenary Session があった。ここでは IEEE の Region 10 や SB や YP の概要や AI とムーンショットなどのトピックについてお話があった。午後には Student, Young Professionals, Women-in-Engineering , Life Member の 4 つに分かれて Parallel Session が行われた。私は Student Session に参加し、参加者との簡単な Ice Breaking や Student, Young Professionals Member の特徴や Keynote の講演を聞いた。

8 月 13 日は、午前中に Parallel Session が行われ Industry & Technology, Humanitarian Technology, IEEE R10 EXCOM Talk, Why IEEE/Startup の 4 つに分かれた。私は主に Industry & Technology のセッションに参加し Video Coding や Space Travel についての講演を聞いた。午後は Team Bonding Activities で会場近くの観光をした。近くの海鮮鍋の食堂でランチをした後、海岸を散策した。夕方からは Culture Exhibition と Culture Night が行われた。私たち日本支部は、Culture Exhibition において茶道や書道を披露し、海外からの参加者にとても好評であった。Culture Night では各国の伝統的なダンスや歌などが披露され、互いの伝統文化を理解すると同時に、多くの参加者と交流を深めることができた。

8 月 14 日は、Technical Workshop として 3D NAND Flash development, 子供の教育などへのレゴブロックをベースとしたコンピュータートレーニング, RFID ネットワークに関する三つの Keynote があり、12 時頃に Closing Ceremony で幕を閉じた。

所感

本会議では speaker の方々による、IEEE 組織の内容から、Computer Science、情報通信の研究成果まで、様々なトピックで講演が行われた。どの講演も興味深く、特に Samsung Research による 6 G applications や Parallel Session での動画圧縮の標準化の講演は最も印象に残った。多くの人が第二外国語である英語を堪能に使いこなして堂々とプレゼンする姿を見て感動した。スピーチに対して、リスナーの参加者は、自身の興味のあるポイントに関してはスライドを撮影して理解を深め、自由なスタイルで熱心に耳を傾けていた。また Parallel Session などでは質問など活発に議論がなされていた。さらに会場では参加者同士が積極的に交流しており、和気あいあいとしていた。本会議には、私が初めて会う人々しかおらず初めは緊張していていたが、多くの人が気さくに話しかけてくれたのがきっかけとなり、会話を展開できた。4 日間を通じて様々な人と充実した交流ができたのでとても楽しかった。中には、名刺をいただくこともあり、将来は私も研究活動などでキャ

リアを築いて IEEE の会議やイベントで名刺を交換したいと思った。

SB からの参加者は少なかったが、他の参加者と同様に有意義な経験であったと思う。私は participant として参加し、将来、自分自身が関わっていく分野における学会の世界の一部を覗くことができた貴重な経験であった。専門分野が完全に理解できなくても、短期間に、広く沢山の専門分野についてのプレゼンに触れるため、多くの学生にとって興味の幅を広げる機会であった。また、通信やコンピューターサイエンスの研究や国際学会の様子を感じ、学会に対する印象を変えるきかっけになった。入学後、グローバルなコンピューターサイエンス分野の世界は、ハイレベルな競争が激しく、厳しいイメージがあり、本当にこの業界に進んでよかったのかと不安になることも多かった。しかし今回の Congress を通して、皆が議論を交わしながらも、明るく交流している場面を見て、さらに私自身も興味深い講演を聞き、多くの参加者と会話する経験を経て情報通信分野についてさらに関心を深めることができた。今後は、気負いすぎる必要はなく、世界の人々の知見を学びながら自身の研究分野を究めていけばよいのだと、前向きな気持ちになった。

また、本会議では同じ分野で活躍する参加者と出会い、国内、海外ともに交友関係を広げる貴重な機会であった。日本からは、視野が広く、高い意思を持つ同じ分野を専攻する学生が参加しており、先生や研究者の方々は、私たち学生と温かく交流してくださった。また海外の方と対面で、英語で会話することは久しぶりであったが、自分自身や相手のこと、特に Culture Exhibition では日本文化についてなどを、楽しくコミュニケーションをとることができる機会が沢山あったので良かった。

これからは、各大学の SB、さらには院性だけでなく学部生も、このような世界の学会に早くから参加して経験を積むことで、将来の研究に対する大きなモチベーションになると思う。今回は participant として参加したが、将来は是非 speaker として R10 のイベントや IEEE 主催の会議などに参加して、研究発表してみたいと思う。そのためには大学での基礎科目はもちろん、英語力やプレゼン力を向上させるために、これからも IEEE 関連のイベント等に参加して、場を踏んでいきたい。また多くの参加者と出会って、同じ SB のメンバーや日本や海外の先生や研究者と、よい交友関係を築くことができたので、今後も繋がりを大切にして更なる関係を広げていきたい。

謝辞

参加に関してご相談させていただき、旅費支援の手続きでお世話になった IEEE Japan Council Student Activities Committee を務める大野先生、参加の許可、旅費支援や、大学内の手続きを進めて下さった早稲田大学 SB の情報通信学科の中里先生、最終的な旅費支援を決定して下さった IEEE Japan Council Treasure を務める早稲田大学情報通信学科の前原先生、東京でのビザ申請や現地でもお世話になった IEEE Japan Council Chair を務める橋本先生、忙しいスケジュールの中、IEEE 日本支部から参加して現地で支えて下さった皆様に感謝します。さらには様々な場面で共に協力しながら、世界の方々との交流の輪を広げたり、Culture Exhibition や Culture Night で団結して盛り上げたりと、充実した時間を共に過ごさせていただいた SB のメンバーの皆さん、ありがとうございました。

皆様の支えがあって初めて、コロナ渦の中、今回、韓国での SYWL Congress で多くの経験を積み、無事に終えることができました。早稲田大学 IEEE SB として、日本の IEEE 関連のイベントや、今回のような国際会議などで活躍したいと思いますので、今後もどうぞよろしくお願いいたします。

写真

Congress の様子

3 日目 Culture Exhibition にて　書道や茶道を披露